

平成25年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月13日

上場会社名 株式会社 ネクシーズ 上場取引所 東・大
 コード番号 4346 URL <http://www.nexyz.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)近藤 太香巳
 問合せ先責任者 (役職名)専務取締役管理本部長 (氏名)松井 康弘 (TEL)03(5459)7444
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年9月期第1四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第1四半期	1,695	△10.3	△120	—	△115	—	△102	—
24年9月期第1四半期	1,890	△1.8	34	△14.1	26	△41.4	294	—

(注) 包括利益 25年9月期第1四半期 △133百万円(—%) 24年9月期第1四半期 313百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第1四半期	△80 90	—
24年9月期第1四半期	231 95	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年9月期第1四半期	7,426	4,795	29.4
24年9月期	7,824	5,181	29.6

(参考) 自己資本 25年9月期第1四半期 2,181百万円 24年9月期 2,313百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	0 00	—	0 00	0 00
25年9月期	—	—	—	—	—
25年9月期(予想)	—	0 00	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	7,600 ～8,200	0.8 ～8.7	320 ～500	6.2 ～66.0	310 ～480	0.8 ～56.0	150 ～240	△63.7 ～△41.8	118 32 ～189 31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P.6「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年9月期1Q	1,341,364株	24年9月期	1,341,364株
25年9月期1Q	73,610株	24年9月期	73,610株
25年9月期1Q	1,267,754株	24年9月期1Q	1,267,754株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予測に関する詳細は、添付資料の5ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	6
4. 四半期連結財務諸表	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 継続企業の前提に関する注記	11
(4) セグメント情報等	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、東日本大震災の復興需要の下支えにより、緩やかな回復基調で推移したほか、金融政策への期待から円高修正や株高が進むなど、景気回復への期待感が高まりました。一方で、世界経済の減速による輸出や設備投資の鈍化に加え、欧州財政危機や中国等の新興国経済の不確実性の高まりにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。GDPの伸び率は、12年7月～9月に0.9%減となりました。消費者物価指数（生鮮食品を除く）は、前年同月比△0.2～0.0の間で推移し、デフレの状況が長く続いております。

このような状況の下、当社グループではブロードバンド事業、ソリューションサービス事業、文化教育事業の3事業を展開しており、各事業の経営資源を最適配分・有効活用していくと同時に、取り扱う商材や業務の見直しにより、収益力の強化に向けた経営基盤の構築を図っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、好調、堅調な業務があった一方で、文化教育事業のきもの着付け教室の運営において授業料や呉服・小物等の販売高が減少傾向にありました。また、ソリューションサービス事業において、今後の事業拡大を見据えた事業間の人員の異動や増員による体制強化を図っております。これにより、第1四半期連結累計期間においては費用が先行しております。

これらの結果、売上高1,695百万円（前年同四半期比10.3%減）、営業損失120百万円（前年同四半期営業利益34百万円）、経常損失115百万円（前年同四半期経常利益26百万円）となり、四半期純損失は102百万円（前年同四半期純利益294百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間における報告セグメントの概況は次のとおりです。

[ブロードバンド事業]

ブロードバンド事業では、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」を提供しております。当第1四半期連結累計期間においては、NTTドコモが提供するXi（クロッシィ）データ通信に対応した高速モバイルサービス「Nexyz.BB LTE プランD」を新たに提供開始いたしました。当社グループでは、低価格なDSL回線を中心に営業を行っておりますが、顧客ニーズに応じて光回線やWiMAX、LTE等の高速通信サービスも提供してまいりました。一方で、営業人員については一部をソリューションサービス事業に段階的に異動しております。

これらの結果、ブロードバンド事業は、売上高693百万円（前年同四半期比5.2%減）、セグメント損失24百万円（前年同四半期セグメント損失6百万円）となりました。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、様々な製品・サービスの販売促進を行っております。

特に電子雑誌の制作に注力しております。当第1四半期連結累計期間においては、電子雑誌5誌の新号を発刊したほか、今後の拡大に向けて有名雑誌の元編集長等の経験豊富な人材を招き入れるなど、コンテンツ強化に向けて組織体制を強化しております。

また、DNA検査に基づく健康コンサルティング業務を行う当社連結子会社、株式会社DiNA（ディーナ）においても人員を増員しております。そのため、当第1四半期連結累計期間においては、それぞれ費用が先行いたしました。

そのほか、過去に獲得した「Yahoo! BB」や「おとくライン」のサービス契約者が継続利用することで得られる継続手数料は解約により自然減しております。

これらの結果、ソリューションサービス事業は、売上高449百万円（前年同四半期比5.4%減）、セグメント利益9百万円（前年同四半期比89.3%減）となりました。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付教室等の運営を行っており、着物がなくても着付けが習える初心者向けの特典コース「ぷらっとぼすぽーと」による生徒募集に引き続き注力したほか、成人式の前撮り業務やホームページのリニューアルを行いました。しかしながら、当第1四半期連結累計期間においては、授業料や呉服・小物等の販売高が減少傾向にありました。

これらの結果、文化教育事業は売上高607百万円（前年同四半期比13.1%減）、セグメント損失6百万円（前年同四半期セグメント利益70百万円）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末の総資産は7,426百万円となり、前連結会計年度末に比べて397百万円の減少となりました。

① 資産の状況

(流動資産)

流動資産は4,039百万円となり、前連結会計年度末に比べて461百万円の減少となりました。これは主に、前払費用が40百万円増加した一方で、当社連結子会社である株式会社ソニア・パートナーズ（以下、ソニア・パートナーズ）株式の追加取得、投資事業組合への追加出資、法人税等の支払い等により現金及び預金が431百万円減少したことや、売掛金が77百万円減少したことによるものであります。

(固定資産)

固定資産は3,387百万円となり、前連結会計年度末に比べて63百万円の増加となりました。これは主に、「Nexyz.BB」のサーバー設備の完成に伴う科目振替により、建設仮勘定が89百万円減少したことや、固定資産の減価償却があった一方で、建設仮勘定からの科目振替等により新設備を取得したことや、工具器具及び備品が112百万円、投資事業組合への追加出資等により、投資有価証券が57百万円、それぞれ増加したことによるものであります。

② 負債の状況

(流動負債)

流動負債は2,569百万円となり、前連結会計年度末に比べて4百万円の減少となりました。これは主に、買掛金が35百万円、未払金が20百万円増加した一方で、解約調整引当金が19百万円、未払法人税等が18百万円、未払消費税が17百万円、前受金が6百万円、それぞれ減少したことによるものであります。

(固定負債)

固定負債は62百万円となり、前連結会計年度末に比べて6百万円の減少となりました。これは主に、長期借入金が7百万円減少したことによるものであります。

③ 純資産の状況

当連結会計年度末の純資産合計は4,795百万円となり、前連結会計年度末に比べて386百万円の減少となりました。主な内訳は、四半期純損失を102百万円計上したこと等により、株主資本が158百万円減少したことに加え、ソニア・パートナーズ株式を追加取得により完全子会社化したことや、少数株主損失の計上等により、少数株主持分が254百万円減少したことによるものであります。

以上により流動比率は157.2%となり前連結会計年度末比17.7ポイント低下いたしました。株主資本比率は、29.4%となり前連結会計年度末比0.2ポイント低下いたしました。一方で、時価ベースの株主資本比率は40.9%となり前連結会計年度末比10.0ポイント増加いたしました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年9月期の業績予想につきましては、平成24年11月15日に公表いたしました「平成24年9月期決算短信〔日本基準〕（連結）」に記載のとおりであり、業績予想は修正しておりません。なお、今後の各事業の取り組み、業績予想については、以下のとおりであります。

[ブロードバンド事業]

ブロードバンド事業においては、インターネット接続サービス「Nexyz.BB」の提供、加入希望者獲得に引き続き注力してまいります。当社の強みであるテレマーケティングによる対話型の営業を活かして、お客様のニーズに合わせて高速通信サービスからDSL回線まで、幅広く提案を行ってまいります。これにより、概ね安定した収入が得られる見込みであります。

[ソリューションサービス事業]

ソリューションサービス事業では、電子雑誌の提供に特に注力してまいります。自社で発刊している電子雑誌の広告クライアント獲得と他社向け電子雑誌の制作業務の受託をそれぞれ強化することにより、業容を拡大させてまいります。また、平成23年9月にDNA検査に基づく健康コンサルティング業務を行う株式会社DiNA（ディーナ）を新たに連結子会社化しており、今後本格的に事業を展開してまいります。その他、インターネットを活用した販売促進支援、金融商品仲介業務については概ね堅調に推移する見込みであります。なお、今後はより成長の見込める分野に集中するため、保険代理店業務、業務用食品卸業支援については平成24年9月期をもって一部業務を終了しております。

[文化教育事業]

文化教育事業では、きもの着付け教室の運営による毎月の授業料収入と、季節や時期に応じたイベントや展示会による臨時的な収入が見込まれます。なお、展示会等の催事は例年通り主に7月～9月に集中して実施する予定です。次期においても、引き続き生徒募集の強化に向けた新たな取り組みや企画、広告宣伝を行い、生徒数の維持拡大に取り組んでまいります。

次期の業績予想につきましては従来の開示方法とは異なり、今回から上限と下限を設けた開示を行っております。これは主に電子雑誌の発刊や制作業務の受託状況によって業績が変動する可能性が高いことによるものであります。また、今後本格的に事業を展開していく株式会社DiNAの進捗状況によっては、連結業績へ影響を与える可能性があります。

上記に記載した将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な不確定要素により大きく異なる可能性があります。

平成25年9月期 通期業績見通し（平成24年10月1日～平成25年9月30日）

売上高	7,600百万円～8,200百万円
営業利益	320百万円～500百万円
経常利益	310百万円～480百万円
当期純利益	150百万円～240百万円

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

記載すべき重要な事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年10月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,291,933	1,860,907
売掛金	1,281,869	1,204,289
商品	105,795	110,894
未収入金	498,869	505,431
その他	353,442	397,007
貸倒引当金	△31,518	△39,241
流動資産合計	4,500,392	4,039,289
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品(純額)	161,477	274,289
その他(純額)	309,957	206,746
有形固定資産合計	471,434	481,036
無形固定資産		
のれん	122,150	120,308
その他	184,162	185,894
無形固定資産合計	306,312	306,202
投資その他の資産		
投資有価証券	1,845,442	1,903,409
敷金及び保証金	372,595	365,756
その他	408,986	411,551
貸倒引当金	△80,264	△80,334
投資その他の資産合計	2,546,760	2,600,383
固定資産合計	3,324,507	3,387,622
資産合計	7,824,899	7,426,912
負債の部		
流動負債		
買掛金	300,596	336,264
短期借入金	1,300,000	1,300,000
未払金	545,092	565,403
解約調整引当金	85,607	65,680
その他	342,250	301,962
流動負債合計	2,573,546	2,569,311
固定負債		
その他	69,432	62,556
固定負債合計	69,432	62,556
負債合計	2,642,979	2,631,867

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,189,156	1,189,156
資本剰余金	1,134,423	1,134,423
利益剰余金	353,587	195,085
自己株式	△339,926	△339,926
株主資本合計	2,337,241	2,178,740
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△23,412	2,687
その他の包括利益累計額合計	△23,412	2,687
新株予約権	398	377
少数株主持分	2,867,691	2,613,238
純資産合計	5,181,920	4,795,044
負債純資産合計	7,824,899	7,426,912

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
売上高	1,890,782	1,695,244
売上原価	1,132,109	1,084,733
売上総利益	758,672	610,511
販売費及び一般管理費	724,063	731,310
営業利益又は営業損失(△)	34,609	△120,799
営業外収益		
受取配当金	—	1,921
持分法による投資利益	1,462	2,795
その他	5,468	1,513
営業外収益合計	6,930	6,230
営業外費用		
支払利息	2,369	775
投資事業組合運用損	12,159	—
その他	20	428
営業外費用合計	14,548	1,203
経常利益又は経常損失(△)	26,991	△115,773
特別利益		
関係会社株式売却益	465,348	—
その他	2	—
特別利益合計	465,351	—
特別損失		
固定資産除却損	225	9,734
その他	633	—
特別損失合計	859	9,734
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	491,483	△125,507
法人税、住民税及び事業税	13,567	9,808
法人税等調整額	164,862	—
法人税等合計	178,430	9,808
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	313,053	△135,316
少数株主利益又は少数株主損失(△)	19,000	△32,759
四半期純利益又は四半期純損失(△)	294,053	△102,556

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成23年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	313,053	△135,316
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△41	2,123
その他の包括利益合計	△41	2,123
四半期包括利益	313,012	△133,192
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	294,012	△100,432
少数株主に係る四半期包括利益	19,000	△32,759

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	ブロード バンド事業	ソリューション サービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	728,382	469,282	693,117	1,890,782	—	1,890,782
セグメント間の 内部売上高又は振替高	3,771	5,970	6,750	16,492	△16,492	—
計	732,154	475,252	699,867	1,907,274	△16,492	1,890,782
セグメント利益	△6,336	91,542	70,275	155,481	△120,872	34,609

(注) 1. セグメント利益の調整額△120,872千円には、セグメント間取引消去122千円、各報告セグメントに配分していない全社収益52,686千円、全社費用△170,968千円、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△2,712千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項ありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額
	ブロード バンド事業	ソリューション サービス 事業	文化教育 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	692,482	395,059	607,702	1,695,244	—	1,695,244
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,331	54,748	185	56,264	△56,264	—
計	693,813	449,807	607,887	1,751,509	△56,264	1,695,244
セグメント利益	△24,811	9,834	△6,931	△21,908	△98,891	△120,799

(注) 1. セグメント利益の調整額△98,891千円には、セグメント間取引消去354千円、各報告セグメントに配分していない全社収益71,740千円、全社費用△169,145千円、各報告セグメントに配分していないのれん償却額△1,841千円が含まれております。

なお、全社収益は、主に連結子会社からの管理業務受託料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない持株会社運営に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。